



2021年11月17日
第87号

JR 東労組



Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



働く者の現実と声を第一としない経営姿勢に立ち向かうため、組合員と共にJR東労組の強化・拡大に決起する11・17集会



職場で読み合わせをしよう！

年末手当等要求実現に向けて組合員と共にとたかい抜いた教訓をもとに
働く者の現実と声を第一としない経営姿勢に立ち向かう中央本部見解

中央本部は、本日「働く者の現実と声を第一としない経営姿勢に立ち向かうため、組合員と共にJR東労組の強化・拡大に決起する11・17集会」を開催し、2ヶ月回答への怒りと要求満額獲得に向けた壁を打ち破ることができなかった悔しさをバネに経営姿勢に立ち向かう、参加者と共に22春闘に挑む姿勢を確立した。

11月11日、会社から出された「2.0ヶ月」という過去最低額回答と「回答書」に生活実感・労働実感について具体的な記載は一切ないことは、赤字・コロナ禍において1年間の努力と奮闘をあまりにも無視した回答であり、断じて認めることはできない。回答を受けた組合員からは不満や怒りの声などが殺到し、全12地方本部が「声明」を発出するまでとなった。中央本部は組合員の声と現実を踏まえ、15号にて緊急再申入れを提出した。それ以降、団体交渉が開催された15日までに職場からの声は連日中央本部に寄せられ、1,000件を超えた。

本部交渉団は、寄せられた組合員・社員の声を会社に強く訴え「昨年よりも業績が上がっているにも関わらず、過去最低となる回答とこれら経営判断は納得できない」「業績が好調の時は『突進感』、業績が悪化したときは『足元の動向』、業績が回復基調になれば『好循環』を理由に賞与がカットされた、たまったものではなし」と主張した。しかし会社は、組合員の声を「受け止めた」としつつも「最終回答である」と冷淡な姿勢で私たちの再考を求める声を退けた。経営幹部は、怒りの声や職場現実から目を背けず、向き合うべきである！JR東労組は、怒り、悔しさをバネに働く者の現実と声を第一としない経営姿勢に組合員と共に立ち向かっていく決意である！

要求実現に向けたたたかう姿勢は、要求と自らのものとして、実現するために掲げ板を創造的に活用したこと。要求を勝ち取る姿勢を明確にして職場でたたかう体制を確立し、職場でたたかうだけではなく「自らからたたかう」姿勢も必要である。これからは、要求と自らのものとして、実現するために掲げ板を創造的に活用し、職場でたたかうだけではなく「自らからたたかう」姿勢も必要である。これからは、要求と自らのものとして、実現するために掲げ板を創造的に活用し、職場でたたかうだけではなく「自らからたたかう」姿勢も必要である。

中央本部見解発出

18春闘しかり、21春闘・拡大を基盤に「怒り」を導き出したからこそ、着実に一歩ずつ組合員と共にたたかうことができた。このたたかうの前進を全組合員で確認しようではないか。

このままの経営姿勢では、年末手当同様に「赤字・コロナ禍」を理由にして、22春闘においても賃金カットが行われることが危惧される。経営責任をこれ以上、労働者に転嫁させるはならない。定期昇給・昇給係数4の実施を前提として要求を掲げ、年末手当のたたかいで培った力を22春闘に繋いでいく。

今もなお、JR東総連の仲間やJR東日本グループで働く仲間も、厳しい現実の中で日々奮闘している。全国の仲間と連帯して、一つひとつ現実を立ち向かっていく。

中央本部は、要求満額獲得に向けた壁を打ち破ることができなかったことに、怒りや悔しさがある。しかし、様々な組合員の現実や意見も踏まえ妥協する判断に至った。私たちのたたかうはこれで終わりではない！怒り・悔しさをバネに、働く者の現実と声を第一としない経営姿勢に立ち向かうため、不服としながらも早期に妥協した他労組や低い相場形成の役割を果たした社友会の実態を明らかにし、これまで以上に組織強化・拡大に向けた実践を全組合員で進んでいく！

年末手当交渉において、組合員から寄せられた職場の現実と組合員の怒りの声を結集するたたかいが会社姿勢に立ち向かう力となった。本部交渉団と共にたたかう抜いて頂いた全組合員に感謝を申し上げ、中央本部見解とする。

2021年11月17日
東日本旅客鉄道労働組合

詳細は横浜地本HPをご覧ください。

11月17日、浦和コミュニティセンター多目的ホールにおいて、JR東労組本部主催「働く者の現実と声を第一としない経営姿勢に立ち向かうため、組合員と共にJR東労組の強化・拡大に決起する11・17集会」が開催され、リモートも活用して200名を超える仲間が結集しました。18名の仲間から会社の経営姿勢に対して「怒りでいっぱい」「納得感はない」「社友会は会社幹部に忖度している」など各職場からの声と「要求実現するためには、組織拡大しかない」「傲慢な姿勢を許してしまっているのは我々だ」など組織拡大に向けてたたかう発言がされました。

発言をもとに、次のたたかいに向けて課題が明確になり、たたかう方向性について意思統一が図られました。

怒りと悔しさをバネに企業姿勢に立ち向かい、組織強化・拡大に向けて職場からのたたかいで22春闘・総合労働条件改善につなげよう！